

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校

研究開発課題及び研究開発の概要

学校名	研究の概要						
熊本県立 熊本工業高等学校 (工業)	【研究開発課題】 産学官協働により災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発 【研究開発の概要】 熊本地震に学ぶことから始め、防災、減災時や災害発生時において適切な対応や貢献ができる人材の育成を目指して、災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発に産学官が協働して取り組む。 ● 育成を目指す人材像 ・ インフラ復旧に貢献できる力を備えた人材 ・ 新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を備えた人材 ・ 居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を備えた人材 ● 研究開発するプログラム <table border="1"> <tr> <td>第Ⅰ型 (土木科)</td><td> インフラ復旧に貢献できる力を育成する教育プログラム 発災後の応急対応及び復興に向けて見通しを立てる能力、外部関係機関と連携したインフラ整備能力等を身に付けさせるために、i-constructionをはじめとする様々な技術の活用体験とその習得や防災マネジメント等について研究する。 </td></tr> <tr> <td>第Ⅱ型 (建築科)</td><td> 新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。 </td></tr> <tr> <td>第Ⅲ型 (インテリア科)</td><td> 居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。 </td></tr> </table> ※検証方法：いずれの類型も、ループリック(「くまテクアチーブメント」H27)による評価を用いる。	第Ⅰ型 (土木科)	インフラ復旧に貢献できる力を育成する教育プログラム 発災後の応急対応及び復興に向けて見通しを立てる能力、外部関係機関と連携したインフラ整備能力等を身に付けさせるために、i-constructionをはじめとする様々な技術の活用体験とその習得や防災マネジメント等について研究する。	第Ⅱ型 (建築科)	新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。	第Ⅲ型 (インテリア科)	居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。
第Ⅰ型 (土木科)	インフラ復旧に貢献できる力を育成する教育プログラム 発災後の応急対応及び復興に向けて見通しを立てる能力、外部関係機関と連携したインフラ整備能力等を身に付けさせるために、i-constructionをはじめとする様々な技術の活用体験とその習得や防災マネジメント等について研究する。						
第Ⅱ型 (建築科)	新耐震建築の構造を理解し復興に寄与できる力を育成する教育プログラム i-construction 等を活用した建物の耐震診断技術、新耐震技術を文化財に応用する技術、被災時における建築技術者としての対応ができる人材育成のために、i-construction (非破壊診断等) の活用や伝統工法の技術の習得等について研究する。						
第Ⅲ型 (インテリア科)	居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を育成する教育プログラム 災害公営住宅等での居住空間におけるコミュニティづくりの技術、生活を快適にするアメニティづくりに関する考え方や能力等を身に付けさせるために、避難所運営支援器具やコミュニティ支援具の製作、まちづくり整備について研究する。						